

とみおかまち



福島県
富岡町

支援員だより

vol.22

【発行日】
2024年3月1日



発行 富岡町県外避難者支援拠点事務所

〒330-0061 埼玉県さいたま市浦和区常盤6-4-21

一般社団法人 埼玉県労働者福祉協議会 内

お困り事など、どうぞお気軽に！
連絡待っているっぴ



TEL 048-832-0600

FAX 048-833-8746

MAIL tomioka_saitama@eos.ocn.ne.jp

第93回

えびす講市ツアー

11月10日から一泊二日で、首都圏に避難されている富岡町民を対象に、富岡町の秋の風物詩「えびす講市」に参加いたしました。

10日の朝にバスで東京駅を出発し、那珂湊で昼食をとり、順調に富岡町に到着しました。皆様に見学場所を聞いたところ、「富岡アーカイブミュージアム」が多かったことから、見学に行きました。ミュージアムでは企画展「矢内靖史氏の写真展 かえるあい」が開催されており、見たことのないカエルの世界を見ることができ、皆様も驚きの声をあげていました。夜の懇親会では、懐かしい富岡町と美味しい料理で話に花が咲き、笑顔の絶えない会となりました。

翌日は、若干の風は吹いていたものの、天気も良く暖かなえびす講市日和となりました。第93回富岡えびす講市



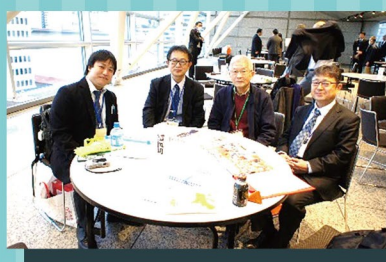
は、13年ぶりに会場を富岡町中央商店街に戻し開催され、ステージ上では大太鼓、大道芸、スペシャルライブが展開され、11時11分11秒に来場者全員で乾杯をしました。当日は、えびす講市以外にも町内各地で福祉まつり、わんぱくパーク秋祭り、ふたば医療センター附属病院祭も同時開催され、皆さん自由に訪れていました。コロナも落ち着き、どこの会場も笑顔で溢れかえっており、楽しいひと時を過ごしました。

県外避難者支援拠点事務所では、年に数回、交流を通じたイベントを開催していく予定です。多くの町民の皆さまの参加をお待ちしております。



ふくしま 避難者

交流会



11月18日(土)に、東京国際フォーラムで「ふくしま避難者交流会」が開催されました。今回は、東京都内と埼玉県内から無料送迎バスが用意されたこともあり、より参加しやすい交流会となりました。

交流会では、関東地区に避難されている32名の方が参加し、帰還された方とのインターネット中継やインタビュー動画で、被災地の現状を知ることができました。また、その後に行ったクイズや笑いヨガで楽しみました。

ラウンジに設けられた各市町村のブースでは、参加者が担当者に悩みごとなどを相談する光景も見られ、有意義なひと時になりました。

2023 ふれあいフェスティバル



11月3日(金)の文化の日に、東京ボランティア・市民活動センター(飯田橋)で、開催された「2023 ふれあいフェスティバル」に参加しました。

このイベントでは、避難者同士のつながりやまた避難先の人々の絆を再確認し、関係を深めていくことが目的です。

コロナ禍で4年間大きなイベントが開催されず、参加状況が心配でしたが、多くの方々に参加していただき大盛況でした。

イベント内容は、落語・バンド・健康笑いヨガ・フラダンス・健康チェック・抽選会など盛り沢山でした。特に落語は、皆様が明るく大笑いしている姿を見ることができました。また、笑いヨガでは、先生の動きをまねして大声と大笑いでストレスを発散しました。

昼食は地域ごとにテーブルを囲み、皆様笑顔で会話を楽しみました。富岡町の方とも話がはずみ、最後は一緒に集合写真を撮りました。



いけばな体験交流会

12月25日(月)に、NPO法人 ちば市民活動・市民事業サポートクラブ主催による『いけばな体験交流会』が千葉県新鎌ヶ谷で開催され、富岡町民2人と支援員が参加しました。30名が集い、昼食をとりながら故郷の話などで親睦を深めました。同じ相双地区に住んでいた方々も参加し、懐かしさから田舎の訛りが飛び交い笑い声の絶えない心地よい時間を過ごしました。

その後いけばな会場へ移動し、講師の指導で、お正月用の松・菊・ピラカンサスをそれぞれ思いのまに活けました。

同じ花を活けても個性ある様々な作品ができ上がり、参加者同士で作品について話すなど貴重な交流の機会となりました。



NPO法人 ちば市民活動・市民事業サポートクラブ

活動の一環として、福島県から千葉県に避難している方々の孤立を防ぐために、支援団体や自治体と連携して相談対応や交流の場づくりを行っています。

